

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

シーピー化成株式会社 神辺工場

(2) 事業所の所在地

広島県福山市神辺町旭丘7

(3) 業種

プラスチック製品製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成 19年度を基準年度とし、平成 29年度から平成 34年度までの 5年間とする。

3 計画の基本的な方向

総排出量基準だと生産量の増減にのみ影響されるので、原単位基準を選択。「省エネ法」と同じ考えで、原単位を5年間で5%削減と前年度より削減が目標。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 19 年度	平成 29 年度
二酸化炭素	5,306	4,759

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 19 年度	平成 29 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 19 年度	平成 29 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成19年度)	削減目標		目標年度 (平成 34 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2				
非エネルギー起源CO2				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

生産数量 単位千ケース

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 19 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 34 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	5,306	914	5.81	5.2	4,550	826	5.51
非エネルギー起源CO2				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	2,015	17.0	-	-	1,673
目標設定の考え方	省エネ法と同じ考えで原単位を5年間で5%削減と前年度より削減が目標						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	電気使用量削減	5%	冷暖温度の適正管理 休憩時間の消灯の徹底 LED照明更新 粉碎輸送ブロー取替
2			
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

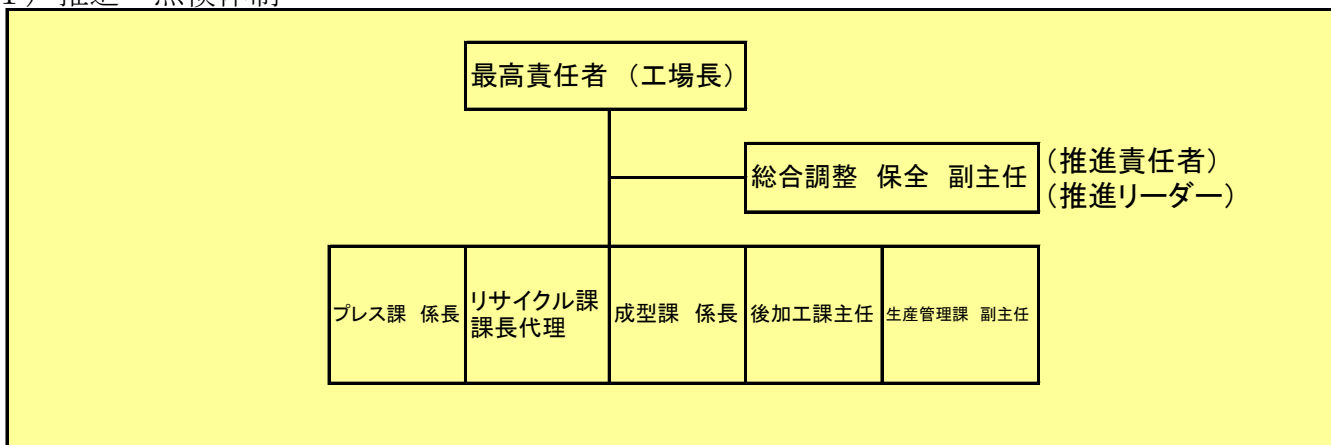
○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

保全を中心として、毎年温室効果ガス削減計画の把握、点検を行い職場安全衛生委員会にて評価・見直しを行います。

(3) 計画書等の公表

工場掲示板に備えつけ